

令和6年度 第2回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和6年11月25日（月）15時00分～17時00分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 蒲原委員、堺(婦)委員、西田委員、松尾委員、田中(吉)委員、江崎委員、江口委員、江寄委員、久保委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【欠席委員】 横田委員・竹谷委員
- 【行政関係者】 大倉野市民協働部長、高口市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、浦川生涯学習課地域学習担当課長、佐藤人権・同和・男女共同参画課長、西村スポーツ推進室長、加藤世界遺産・文化財室室長
田中生涯学習課社会教育主事、藤木生涯学習課社会教育振興担当職員

◆あいさつ

大倉野市民協働部長
堺議長

◆議題

1 子育て情報誌「おおむたっ子」への社会教育委員メッセージについて

第1回 社会教育委員の会議での寄稿依頼を受け、4名の委員から提出されたテーマについて協議。
以下の意見・質問が出た。

行政職員	子育て情報誌「おおむたっ子」は、地域のボランティアと行政が協働することで、子どもたちの様々な体験活動を充実させるとともに、家庭教育・次世代育成を支援することを目的に刊行されているものである。本市の少子化と文書のデジタル化をうけ、本年度は9千部を発行。今回提出されたテーマについては来年3月、第52号に掲載予定。ぜひ、委員の皆さまのご意見をいただきたい。
議長	本日の会議ではテーマをひとつに絞るのではなく、各委員からの提案をもとに自由に議論を交わしていただき、その内容を編集委員会にて集約する。 まずは4名の委員から、それぞれ発表をお願いしたい。
委員	「親子で自然と友達になろう！」をテーマに提出した。私は、小学校の自然環境学習に関わって25年になるが、様々な子どもたちの体験活動を見守っていくなかで、やはり子育てには、親子がともに自然と仲良くなることが重要であると感じた。自然の中を歩き回り、親子で大いに笑い合い、感動や思い出を共有することで、感受性豊かな心を育ててほしいと考えている。自然と親しむといえれば本市の延命公園についても、体が不自由な方や杖をついた方が比較的容易に利用でき、自然豊かな良い公園であると思う。

委 員	「子どもと大人たちがもっと自由に社会参加&社会活動できる環境や風土をつくろう！」をテーマに提出した。少子高齢化が進む中、周囲がお膳立てしないと遊べない子どもや、自由に活動できない子育て世代が増えているように感じられる。実際、子育てふれあい広場 れもんぐらすでの活動でも、折り紙をもらっても何をしたらいいのか分からない親子がいる。先月、柳川の保育協会へ折り紙を教えに行った際、紙飛行機の折り方を知らない保育士が、参加者170名中150名ほどいる事に驚いた。年配の先生はご存じの方もおられたが、40代ほどまでの若い世代は、作り方も知らないということであった。 先ほどの委員のお話にもあったとおり、自然との関わり方や、学び・遊びに関して、『こうでなければならない』というルールはないと考える。そこで、表に出てこない、子育て世代の『地域に参加したい、働きかけたい』という願いや考えに答えていくためには、まずは、どんな人が社会教育委員なのか、どんなことをやっているのか、積極的に見せていくべきではないかと思う。子育て世代が情報誌「おおむたっ子」の中で『社会教育委員からのメッセージ』を読んだとき、社会教育委員ってなんなの？誰なの？となるより、地域にはこんな人達がいて、こんな活動をしていて、色々サポートをしてくれるんだ！と知っていてもらったほうが良いのでは。
委 員	「家庭だけでなく、地域の皆で見守り、育てよう。行政の助けも借りながら。」をテーマに提出した。先ほど延命公園の話が出たが、先日延命公園にて幼稚園の野外体験学習を行った際、『3歳の子どもが動き回って周囲に迷惑をかけるので連れてこなかった』と仰る親御さんがいた。是非連れてきてください、迷惑じゃないから、とお答えした。子育ては家庭だけで抱え込むのではなく、周りや地域の人達が見守り、繋ぎとなる年配の方々や年上の子ども達との関わりを大事にするなど、子どもの周囲や地域を含めて育てていくべきだと思う。また、子育て世代が何かをしたい時や学びの情報が欲しい時、足を運びづらいところを訪ねる必要に迫られないよう、地域の保育園や保育士が、相談場所としての役割を果たすことができれば非常に助かるのではないだろうか。その際、市が保育園や保育士へアドバイスやサポートを行い、ボランティア団体との橋渡しをしたり場所を提供するなど、コーディネーター的な立場で居れば、子育て世代としては、毎日お世話になる保育園がより安心して諸々を相談できる場になると考える。事業支援などを行っているのだから、行政にはぜひ、月に数回で良いので保護者へその情報を提供して欲しい。そのことで、子育て世代が年配の方々や子育ての先輩に出会い、関わる機会に繋がり、親も子どもも色々学ぶことが出来ると思う。
議 長	(テーマを提出した委員が欠席のため代読) 「こどもは地域みんなの宝物。こどもの笑顔がいつまでも守られるように！笑顔あふれる家庭が増えますように！」ということで、子育てを地域で見守る環境づくりという要点では、先に発表された3名の委員からのテーマと共通するものではないかと考

	える。 以上の提案をふまえ、何か意見はないか。
委 員	私は小学校のPTA会長として、まちづくり推進協議会とも関わる活動をしているが、PTAの方と子育てに携わっている方々との温度差を感じる。双方の考え方の相違が大きいので、この温度差を100%埋めるのは極めて難しいと思う。幼稚園等で子育て世代を支えるのは良い考えであると思うが、果たして若い人達が、人生の先輩方の意見を正直に受け入れるのか疑問である。世代間のギャップはどうしても埋められないのではないか。
委 員	子育てについて『一緒にやっ払いこう』と地域や周囲が思っている、『うちの子は迷惑を掛けるから』と、関わり合いの前の段階で踏み留まっている親御さんも多い。
委 員	家庭や家の外に出ることで変わってくるものもあるのでは？
委 員	仮にサポートを行う場があるとして、生活や子育てに困窮している、本当に助けが必要な親御さんは来ない。きちんと子育てできている積極的な親御さんが来る。そのジレンマのため、どんな子育て世代であってもほぼ毎日必ず足を運ぶ幼稚園や保育園を協力の場とするのは、非常に良い案だと思った。
委 員	熱心で一生懸命な親の働きかけに対して、幼稚園の先生には時間がなさ過ぎて、対応ができていない。そしてこれが小学校の先生になると、『公務員』という制限や縛りがあるために、結果として子育て世代との埋まらないギャップが生まれてしまうように感じている。
委 員	確かにPTAと地域、子育て世代の間には大きなギャップがある。歩み寄りが必要だと感じる。
委 員	私は大正校区でまち協の活動に関わっている。地域における世代間のギャップを埋めるため、昨年度、青年部をつくった。まち協役員とPTAとが協働で活動している。小学生を対象にした活動を通じて小学校とは上手くやれるようになってきたが、中学校とも繋ぎを、ということで、運営委員会に参加している小・中学校の校長先生方と互いに情報を交換している。先日もクリーンアップ運動で小・中学生達と協力し、公民館にランドセルと鞆を置いて、1時間ほど楽しくゴミ拾いを行ったところである。PTAとも接点生まれ、今後ともうまく活動を続けて行けそうである。
議 長	青年部を作って地域を見守ろうという目的を持ち、ゴミ拾いで地域を綺麗にするという世代間共通の行動によって、交流と繋がりが生まれた良い例である。
委 員	青年部の実行委員は、現在何人ほど居るのか。
委 員	まだ4～5名ほど。しかし、PTA等の団体に所属していなくても、『何かあったら地域のために参加しよう！動こう！』という地域住民や保護者は他にもいる。

委 員	お年寄り世代が子育てに関わるのは素晴らしいが、若い親世代にとっては、全然面識のない他人や馴染みのない場所では、プライベートな問題を相談しづらいのではないかと。先ほどギャップについて挙げたが、そこが一番大きいと思う。同世代間であってもコミュニケーションを苦手とする親御さんは、『誰かに頼れたらいいな』という思いはあっても、二の足を踏んでしまう。外に出づらい子育て世代が馴染みになる、顔見知りをつくるという点では、若い世代が利用しやすいネットやSNSでの情報発信や提供が有効なのではないだろうか。
委 員	『信頼関係を築く』という観点において、SNS上での短い文章のやり取りだけで十分といえるのか。やはり、顔を合わせて話をするなど、人と人とが実際に会うのがより良いのでは？
委 員	それが出来れば一番だと思われるが、働いていて仕事で忙しかったり、生活で精一杯な子育て世代が非常に多い。やはりその温度差を埋めるには、とても壁が厚いと感じる。
委 員	皆さん、『忙しい、忙しい』と言う。しかしその割には、学校まで子どもを車で送り迎えする親御さんが多い。これは何故だろうか。
委 員	自分の子どもには自分の時間を割くという傾向の人が多いのでは。
委 員	やはり、SNSを抜きにしては、コミュニケーションが苦手な親御さんは地域や人との関わりが取りづらいのではないかと考えるが。
委 員	子どもが幼稚園・保育園に居る間に、親同士がパパ友やママ友として、色々と相談し合えるような関係を確立させるのはどうだろうか。実際、自分は子育て中に知り合った人達との繋がりが今でも続いており、相談や情報共有の場になっている。
委 員	コミュニケーションが苦手な親御さん同士では、結局、その限られたコミュニティの中で子育てなどの愚痴を言い合って、そこでお終いになってしまうのでは？地域や家庭の外に繋がらない。
委 員	それこそ、公園など自然の中で遊ぶことにより、世代間のコミュニティが広がっていくのではないかと。実際は『めんどくさい』と言う子育て世代が居るのも現実であるが。
議 長	他の世代とももっと馴染みになって、関わり合いながら子育てしたいという願いを持つ親御さんは多いと思う。
委 員	親御さん達の悩みに対して、市や行政など、上位からのアプローチは出来ないのか。
委 員	だからこそ、『地域には子育てを支えてくれる社会教育委員がいるんだ』ということを知らせて行かなくてはならない。社会教育委員がどういった人達でどんな役割を持ち、それぞれが日頃どんな活動をしているかを広く周知するべきではないか。
議 長	子育て世代と地域と社会教育委員とが共通の目標を持つことで、問題や課

	題の解決につながるのでは。その繋がりの中で互いに関わり合う方向性も変わっていき、コミュニケーション力の強化にもなると考える。
委 員	この会議の内容を「おおむたっ子」のテーマとしてどのように纏めて各家庭へ伝えていけばいいのか。
議 長	編集委員会の手腕に期待するところである。

2 令和6年度南筑後地区社会教育委員交流会について

当日配付資料「研修参加報告書」を基に、蒲原委員、江崎委員、江口委員より報告。（意見・質問なし）

3 令和6年度福岡県社会教育研究大会について

当日配付資料「研修参加報告書」を基に、西田委員、江寄委員より報告。（意見・質問なし）

4 大牟田市子ども読書計画の改定について（中間報告）

事前配付資料「大牟田市子ども読書計画の改定について（中間報告）」を基に、徳川生涯学習課長より報告。

以下の質問が出た。

行政委員	アンケート・インタビュー調査範囲は、大牟田市内の小・中学校生徒、大牟田市の事業に参加した高校生とその保護者である。
委 員	「子ども読書計画」とは具体的にどのような目標を掲げているのか。
行政職員	国と県が計画し、掲げる数値目標がある。具体的には、本を読まない子ども達がまずは本を好きになり、そのことで読書が好きな子どもの割合を増やそうとするもの。
委 員	承知した。

5 第77回はたちの集いについて（報告）

当日配付資料「第77回はたちの集い 実施要項」に基づき、浦川生涯学習課地域学習担当課長より報告・案内。

以下の質問が出た。

行政委員	スケジュールは昨年度からの大きな変更点はない。独唱など登壇者についても、公募にて無事に決定したところである。
委 員	例年の消防団募集案内で、以前は地域の消防団の若者たちによる声掛けがあったが、今年度の予定はどうなっているのか。
行政委員	出初式の後となるため、その辺りの判断は消防団にお任せする。
委 員	承知した。

6 第39回人権フェスティバルについて

当日配付資料「第39回人権フェスティバル」の資料に基づき、佐藤人権・同和・男女協働参画課長より説明。(意見・質問なし)

⇒次回会議 令和7年1月中旬～下旬 予定